

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「自律」「協調」「進取」の校訓の下、自分自身で考え、行動できる人、他の人のことを考えられる優しい人、進んで新しいことに取り組める人の育成を行う。
1 基礎学力の充実で、確かな学力を身につけ、各自の将来の可能性を広げる。
2 一人ひとりの生徒に寄り添いながらキャリア教育を計画的に実施し、自らの目標を、自ら切り拓くことができる、社会の中でたくましく生きる力を育成する。
3 学校生活の充実、活性化により、集団における規範意識、社会性を身につけ、よりよい社会の構成員を育成する。

2 中期的目標

1 基礎学力の充実
(1) 「わかる授業、充実した授業」をめざし、授業改善に取り組む。
ア ICTを活用した取組みを推進し、公開授業や研究授業を効果的に活用した授業改善に組織的に取り組み、1人1台端末を効果的に活用した授業改善と研究を進める。
※ 学校教育自己診断(生徒)における、授業内容のプラス評価を前年度以上とし、令和9年度には80%を目標とする。 (R4-75.0% R5-77.1% R6-78.7%)
※ 授業アンケートにおける、授業分析・生徒意識の評価を向上。令和9年度には93%・90%以上を目標とする。 (R4-91.0%・87.6% R5-91.2%・86.7% R6-90.6%・85.7%)
※ 学校教育自己診断(教職員)における、到達度の低い生徒に対する学習指導の評価を70%以上とし、令和9年度には75%以上を目標とする。 (R4-71.2% R5-54.9% R6-56.5%)
イ 幅広い知識と教養を身につけ、新たな学習への意欲を高揚できるよう、読書を促進し、さらに有効な図書館活用を推進する。
※ 学校教育自己診断(生徒)における、読書状況を改善する。令和7年度は45%を目標とし、令和9年度には50%とする。 (R4-32.3% R5-35.2% R6-41.1%)
2 キャリア教育の計画的実施による、たくましく生きる力の育成。
(1) 「総合的な探究の時間」とLHR等を有機的に連携させ、キャリアパスポートを用いたキャリア教育、人権教育、道徳教育を実施する。
ア 各学年の計画から3年間を見通した計画に取り組み、キャリア教育、人権教育、道徳教育を主軸とした学習を実施する。
※ 学校教育自己診断(生徒)における、進路関係のプラス評価を前年度以上の数値を目標とする。(R4-86.6% R5-86.4% R6-90.3%)
※ 学校教育自己診断(生徒)における、人権について学ぶ機会、いじめなどの対応についての評価を前年度以上とし、令和9年度には83%以上とする。 (R4-81.3% R5-81.5% R6-79.8%)
※ 学校教育自己診断(教職員)における、創意工夫を生かした「総合的な探究の時間の評価」を65%以上とし、令和9年度には70%を目標とする。 (R4-62.7% R5-57.1% R6-57.8%)
(2) 生徒個々の意欲・能力を伸ばし、進路実現の可能性を拡大する。
ア 学年・教科・分掌の連携を図り、進路別のゼミなどを通じて各自の希望進路が実現できる能力を育成する。
※ 就職決定率100%を目標とし、就職・進学講習、各種検定等学習機会の充実。(R4-100% R5-100% R6-100%)
3 教育活動の充実で、規範意識と社会性を身につけた、よき社会の構成員の育成。
(1) 学校行事、部活動の活性化を図り、規範意識と社会性を育成する。
ア 生徒会活動、部活動を通じて、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。
※ 部活動参加率を令和9年度45%以上へ向上。令和7年度入学生の部活動参加率40%以上を目標とする。(R4-32.1% R5-35.2% R6-37.1%)
イ 授業・HR・行事におけるあらゆる場面において、市民としての自立と公民意識の育成を図る。
※学校教育自己診断(生徒)における「社会のルールを学ぶ機会がある」の評価を令和9年度には90%以上を目標とする。 (R4-83.7% R5-85.3% R6-85.4%)
(2) 地域との連携の中で、社会性を育成し、各自が、自信と誇りを持てるように、能力と意識を高める。
ア 地域連携活動への参加を促進し、自信と誇りを高める。
※ 学校教育自己診断(生徒)における「保護者や地域の人とかかわる機会がある」の評価を令和9年度には60%以上を目標とする。 (R4-46.9% R5-53.6% R6-55.1%)
4 学校運営組織の充実と指導力向上
(1) 授業研究・職員研修を積極的に進め、経験年数の少ない教員の授業力の向上と、学校全体の教育力の向上を図る。
ア 初任者育成体制を活用し、教育課題の解決、研修成果の共有機会を確保する。また、計画的な職員研修を実施する。
※ 学校教育自己診断(教職員)における、研修の成果に関する項目のプラス評価を令和9年度には70%以上とする。 (R4-55.8% R5-63.5% R6-57.4%)
(2) 教職員の健康保持のため、校務運営の効率化を図り、働き方改革をいっそう推進する。
ア 一斉退庁日の活用、ノークラブデーの徹底、業務改善により時間外勤務時間の縮減を図る。
※ 1月あたり40時間超の時間外勤務者数を、令和9年度にはのべ160人以下とする。 (R4-253人 R5-219人 R6-205人)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和7年11月実施分〕	学校運営協議会からの意見
生徒向け学校教育自己診断 24項目ほぼすべての項目で前年度のポイントを下回った。特に「学校行事は楽しく工夫されている」という項目は前年度より8.9ポイント下がった。今年度文化祭で来場制限をかけたことがこの結果になったと考えられる。また、「学校に行くのが楽しい」8.0ポイント「授業はわかりやすく楽しい」8.8ポイントと前年度より8ポイント以上下がっており、授業が楽しくないから学校に行くのが楽しくないと感じているのではないかと推測される。さらに「先生は生徒の話をよく聞いてくれる」や「先生は自分が努力したことを認めてくれる」という項目では学年が上がるにつれポイントが上がっていることから1年生への働きかけを改善する必要があると考える。指導の納得感としては「学校生活について、先生の指導には納得できる」では前年度より6.7ポイント下がり59.1%の生徒しか納得感を感じていない。 来年度は、生徒のニーズに合った授業改善に取り組み、授業がわかりやすく、生徒の話を聞くことで生徒が「学校に行くのが楽しい」と感じられる取り組みや生徒が納得できるような指導内容や指導方法を考えていきたい。 保護者向け学校教育自己診断 20項目のアンケートを行った。生徒とは対照的に「子どもは授業がわかりやすいと感じている」という項目で昨年度より7.1ポイントの上昇であったが、肯定的な評価は57.6%であった。また、「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」という項目では7.1ポイント下がったが、肯定的な評価は62.7ポイントであり、授業がわかりやすいと学校に行くのが楽しみであることは比例していると感じられる。保護者のポイントが高かったのは「保護者の相談に適切に応じてくれる」という項目であり、89.2%の保護者が肯定的に回答している。教職員の保護者対応は保護者に理解されていると実感できる。情報提供や生徒指導方針の共感などはポイントが上昇していることから、来年度も継続していきたい。 教員向け学校教育自己診断 26項目のアンケートを行った。「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」97.8%で3.9ポイント、「生徒指導において、家庭との連携ができている」95.3%で3.6ポイント「生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容について工夫をしている」93.2%で6.0ポイントと高い値で上昇をしている。しかし、多くの項目でポイントが上昇する中、「教育活動全般において、生徒や保護者の願いに応えている」の項目が7.5ポイント「教職員は生徒の意見をよく聞いている」の項目で2.7ポイント「カウンセリングマインドを取り入れた生活指導を行っている」の項目で2.4ポイント下がり、組織としての課題が見えた。来年度は、「わかる授業」をめざし一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援、実態の応じた学習支援の充実を図りたい。 生徒向け、保護者向け、教員向けすべてで、教室、施設、設備などの学習環境、職場環境の項目が下がっている。可能な限り環境整備を行いたい。	【第1回】令和7年6月25日（水） ・長時間勤務に関して、教員の減少の中、業務量が変わらないと減少しない。 ・教員の健康、体力維持のためにも、長時間労働は減らさないといけない。 ・部活動の負担軽減の方策としては何を行っているのか。 →顧問の複数人配置や、ノークラブデー及び活動制限時間の徹底 ・部活動の外部委託について教員のやりがいや生徒の安全面など考えて検討が必要。 ・笑顔であいさつする生徒が多く見られた。 ・学校の魅力として、制服や体操服のデザインや校則の厳しさは重要になってくるのではないかと。もっと生徒が入学したいと思える学校づくりが必要。 ・先生が楽しく働ける学校に関して、体育祭での先生と生徒の距離が近い感じがある。 ・調査等の長時間を要する業務が、類似したものも含め府からトップダウンでおりてくるが、なんとか解消できないのか。知事に現状を伝える、改善を促す手立てはないのか。 ・諸問題の解決のため、他校と協働して、解決に至る方策を検討してはどうか。 ・就職ゼミや、オリエンテーション等があり、就職率100%は安心できる。 ・有名企業や大学等の実績があり、保護者からしても安心できるのではないかと。 ・幅広い進路先があるのは、魅力的。 ・就職の離職率の実態はどうか。追跡調査はすべきではないかと。 ・進路指導について、21世紀のキャリア教育とは、就職先を割り当てただけでいいのか、生徒が社会で生き残れるキャリア教育が必要。多様性を生かしたキャリア教育を考えるフェーズにあるのではないかと。 ・令和10年度以降の入学選抜制度について、本校はどうやって生き残っていくかを考える必要がある。 ・選抜タイプで内申書重視であれば、良いアピールになり他校との差別化も図れるのではないかと。 ・海外との姉妹校交流について、生徒同士の交流だけでなく、教員同士の交流や学校同士の交流ができればいいのではないかと。 ・地域の中の高校という視点から、今後の発展を考えるのも大事。 ・広いグラウンド等があるので、積極的に中学校と合同での練習を検討してはどうか。 ・本委員会で本校の強い強みを今後に向けて考えていきたい。 【第2回】令和7年11月19日（水） 授業見学について ・多様な生徒の主体的な活動への対応には、教員が複数必要ではないかと。 ・落ち着きのない、意欲に乏しい生徒が散見された。また、欠席が多いクラスも気がかりである。 ・ICT機器の活用により、指示が明瞭であった。 ・自由な雰囲気での授業で、おおらかで優しく対応する先生が多いという印象。 令和7年度 学校経営計画の進捗状況について ・避難訓練（秋）の実施内容について、教員が臨機応変に対応する形式で実施したのか。→教職員への指示はその場で判断して行い、電気・放送を遮断し、防火扉が数か所閉じた状態で実施した ・西寝屋川高校の特色として、地域連携を大事にしていきたい。 ・外部指導員の活用実態はどうか、積極的に活用しないのか。→柔道部や茶道部では活用しているが、希望してもなり手が見つからない部活動がある。 ・就職内定率100%であることや、就職先の情報をもっと積極的に発信してはどうか。 令和8年度使用教科書採択について ・採択教科書に関しての反対意見はなし 令和10年度以降の公立高等学校入学者選抜に係る学校特色枠について 【第3回】令和8年2月18日（水） 令和7年度44期生の進路状況について ・1月末時点で進学先が決定している生徒は学年全体の52%、就職先が決定しているのが35%となっている。 ・進学希望者に関しては、A0入試や指定校推薦入試などの年内入試で進路先を決定する生徒が多い。一般入試受験予定者は13名。 ・就職に関しては、近年、高卒求人が非常に多い。 学校斡旋による就職希望者49名のうち49名が内定。（就職率100%） ・公務員希望者6名のうち6名が内定。 令和7年度学校経営計画及び学校評価（評価案）について ・評価指標である学校教育自己診断において、生徒の評価は多くの項目で数値の減少が見られる一方、教職員の評価は向上が見られる。 ・進路への意識に関する学校評価から、1、2年生時点から意識を高められる働きかけが必要である。 ・業務量が変わらない中、教員数の減少があり、一人当たりの業務量が増加している。教員の増員がなければ解決が難しいのではないかと。 ・校務分掌の見直しや、ICT機器の活用など業務のスリム化等の必要がある。

府立西寝屋川高等学校

	令和8年度学校経営計画及び学校評価（計画案） ・「一人ひとりのニーズに応じた学習」、「人権教育」、「安心で安全な学校生活」、「職場環境の改善」などをより強調して盛り込んでいる。 ・ストレステストの内部分析、学校教育自己診断の結果等よりフォロー体制は整っているといえる。 ・働き方改革に関連し、朝の時間外労働対策として、次年度より校時の変更を行う。 ・道路交通法改正に伴い、自転車登校について、より一層の教育が必要ではないか。また、生徒引率の際にもより一層の注意が必要である。 令和7年度学校教育自己診断（結果） ・生徒のあらゆる教育活動の満足度の低下が見受けられる。 ・教職員の自己診断に関して、多くの教育活動に関する数値が上昇傾向にある。生徒への波及効果が課題である。 ・保護者の自己診断に関しては、回答数の少なさが改善点である。 ・「プライバシーは守られている」の回答に関して、10%程度の否定的な生徒への対応が必要ではないか。 令和7年度第2回授業アンケート（結果） ・全教科で第1回（7月実施）から第2回（12月実施）にかけて数値の向上が見られ、授業者の工夫や努力がうかがえる。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容		評価指標[R6年度値]	自己評価
1 基礎学力の充実	(1)「わかる授業、充実した授業」をめざし、授業改善への取組み	（1）ア	・本校の課題を各学年・各教科・分掌等で共有化し、学校全体として取り組む。	・各学年・各教科・分掌等で共有化のもと、目標設定を行い、学校教育自己診断（教職員）による分掌・学年間の連携のプラス評価を前年度以上とする。[66.0%]	・学校教育自己診断（教職員）による分掌・学年間の連携のプラス評価を前年度以上とする。【65.1%】（○） Web 会議システムやチャット等を活用しているが、まだまだ共有できていないと感じる教員が多い。意識改革とともに、共有できるシステムを構築する。
	ア 公開授業・研究授業・授業アンケートの活用		・生徒の現状を捉え、教職員が共通した教育観を持つ（職員研修等、事例発表）。	・学校教育自己診断(生徒)による授業理解のプラス評価 80%以上。[78.7%]	・学校教育自己診断(生徒)による授業理解のプラス評価 80%以上。【73.8%】（△）授業がわかりやすくて楽しいと考える生徒の割合が減少した。生徒の現状把握を行い、「わかる授業」とは何かを研修等で考え、授業改善を行う。
	ICT 活用授業の研究		・「わかる授業、充実した授業」をめざし、生徒の課題克服を念頭に、相互の授業見学によって多様な授業スタイルを共有する（年2回以上実施）。	・授業アンケート「授業分析」「生徒意識」項目のポイント向上。[90.6%・85.7%]	・授業アンケートポイント向上。「授業分析」【90.7%】（○） 「生徒意識」【85.8%】（○）
	学習到達度の低い生徒への学習指導		・到達度の低い生徒へのアプローチとして、補習も含めた授業外の学習を促進する。	・学校教育自己診断(教職員)における、到達度の低い生徒に対する学習指導のプラス評価 70%以上。[56.5%]	・学校教育自己診断(教職員)における、到達度の低い生徒に対する学習指導のプラス評価 70%以上。【60.0%】（○）到達度の低い生徒だけでなく、生徒のニーズに合った学習を考えていく。
			・1人1台端末を効果的に活用し、生徒の学習意欲を高める授業を行うとともに、生徒が登校できない場合の学習支援体制を維持する。	・学校教育自己診断(生徒)「授業で、コンピューターやプロジェクターなどを活用している」による ICT 活用のプラス評価を 90%以上とする。[91.9%]	・学校教育自己診断(生徒)「授業で、コンピューターやプロジェクターなどを活用している」による ICT 活用のプラス評価を 90%以上とする。【89.6%】（○）PCなどの活用について評価が下がったが、授業アンケートでは興味関心が高まったと感じている生徒が1学期より2学期に増えており、PCやプロジェクターを使用することが学習意欲を高めることではないと判断できる。
	イ 読書の促進	イ	・図書室は学習においても活用し、さらに環境整備を行い、本に親しむ環境を整える。	・学校教育自己診断(生徒)における読書状況の図書館利用率 45%を目標。[41.1%]	・学校教育自己診断(生徒)における読書状況の図書館利用率 45%を目標。【35.4%】（△）図書館を整備し直し、授業等でも活用しやすいように工夫する。

府立西寝屋川高等学校

2	(1) 3 年間の計画的なキャリア教育、人権教育 ア 「総合的な探究の時間」に各教科指導・LHR を連携させたキャリア教育、人権・道徳意識の向上	(1) ア	・「HR 等計画委員会」が中心となり、「総合的な探究の時間」の活用に向けて、現状分析と課題把握、今後の方向性と課題解決策の策定に取り組み、希望進路の実現を図る。	・学校教育自己診断(教職員)の総合的な探究の時間のプラス評価 65%以上。[57. 8%]	・学校教育自己診断(教職員)の総合的な探究の時間のプラス評価 65%以上。【68. 3%】(◎) 先を見通した計画を立てることができた。
			・外部人材やキャリアパスポートの活用、インターンシップ実施等、より広い観点からキャリア教育を行う。	・学校教育自己診断(生徒)による進路関係の前年度肯定率を維持。[90. 3%]	・学校教育自己診断(生徒)による進路関係の前年度肯定率を維持。【85. 4%】(△) 1 年生から進路についてのHR を行っているが、1 年生の評価が 80. 5%と低く 1 年生から自身の将来について考えられるように工夫する。
			・人権尊重の教育を促進し、人権研修（生徒・教職員）を実施し、偏見や差別を許さない教育環境を実現する。また、感染症予防、公衆衛生に関する正しい知識や態度を育成し、新型コロナウイルス感染症に対する偏見や差別がない学校をめざす。	・学校教育自己診断（生徒）による人権・道徳教育の肯定率を前年度以上にする。[79. 8%] ・人権研修の実施回数（生徒・教職員）を今年度と同程度とする。[生徒各学年 3 回、教職員 4 回]	・学校教育自己診断（生徒）による人権・道徳教育の肯定率を前年度以上にする。【79. 9%】(○) ・人権研修の実施回数（生徒・教職員）を今年度と同程度とする。【生徒各学年 3 回、教職員 4 回】(○)
	(2) 進路実現の可能性を拡大 ア 各進路希望別ゼミの充実による希望進路の実現	(2) ア	・進学希望者の意識・学力の向上をめざした教育活動を積極的に進める。	・学校教育自己診断(生徒)「将来の進路や生き方について考える機会がある」、「学校は、進路についての情報を知らせてくれる」に関する前年度肯定率を維持[90. 5%]	・学校教育自己診断(生徒)「将来の進路や生き方について考える機会がある」、「学校は、進路についての情報を知らせてくれる」に関する前年度肯定率を維持。【86. 3%】(△) 進路情報については 3 年生が 92. 0%に対し、1 年生は 81. 4%であり、必要と感じている生徒には届いていると感じる。 1 年生の時から必要性を感じられるように進める。
			・進路実現をめざした、「自ら発信する力」の醸成をめざし、授業をはじめ、様々な指導の場面において「挨拶」の励行を推進する。	・学校教育自己診断(生徒)「挨拶は自分から進んで行うよう心掛けている」の肯定率前年度以上。[75. 1%]	・学校教育自己診断(生徒)「挨拶は自分から進んで行うよう心掛けている」の肯定率前年度以上。【73. 1%】(○) 1 年生が 83. 2%で 2 年生が 66. 2%であった。できていることを続けられるように学校の雰囲気をつくる。
			・進路決定後の進路別の接続を意識した学習のあり方を検討する。	・就職ゼミによる就職決定者に「社会人講座」等の就職前指導を実施。就職決定率 100%をめざす。[100%]	・学校紹介就職決定率 【100%】(○)
3	(1) 学校行事、部活動の活性化 ア 集団の中で人と調和しながら活動できる能力の育成	(1) ア	・新入生全員加入期間を複数回実施するなど部活動参加促進の取組みを進める。	・1 年生の部活動加入率 40%以上を目標。[37. 1%]	・1 年生の部活動加入率 40%以上を目標。【42. 3%】(○)
			・朝の SHR で遅刻防止、新型コロナウイルス感染症対策として生徒の健康把握を行う。	・全体の遅刻回数をのべ 2, 500 回以内とする。[2, 590 回]	・全体の遅刻回数をのべ 2, 500 回以内とする。【2072 回】(◎)
			・交通安全週間の定期的な実施で、交通マナーの徹底を図る。	・PTA と連携し、年間 2 回の登校時の交通安全指導を実施[2 回]。学校教育自己診断(生徒)「社会のルールを学ぶ機会がある」の評価を前年度以上にする。[85. 4%]	・PTA と連携し、登校時の交通安全指導を実施。【1 回】(△) PTA 活動の見直しを行ったため 1 回しか実施しなかった。 学校教育自己診断(生徒)「社会のルールを学ぶ機会がある」の評価を前年度以上にする。【88. 0%】(○)
			・避難訓練等を通じて防災・災害対応についての意識を高め、自助・共助・公助の大切さを学ばせる。	・学校教育自己診断（生徒）「学校で事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか知らされている」のプラス評価 90%以上。[93. 3%]	・学校教育自己診断（生徒）「学校で事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか知らされている」【92. 7%】(○)
			・アルバイト指導の徹底、授業規律の確保等、学習を重んじる姿勢、社会人としての規範を身につける指導を丁寧に行い、生徒指導に対する納得感を高める。	・学校教育自己診断（生徒）「生徒指導の納得感」70%以上。[65. 8%]	・学校教育自己診断（生徒）「生徒指導の納得感」【59. 1%】(△) 授業規律や規範意識など、丁寧な指導をすることで、生徒自身が納得し、改善できるように取り組んでいく。

府立西寝屋川高等学校

	イ 市民としての自立と公民意識の育成	イ	・授業・HRのみならず、学校行事の中でも公民教育（主権者教育）を展開する。	・学校行事に主体的に取り組む生徒を育成。学校教育自己診断（生徒）「学校行事は楽しく行えるように工夫されている」の評価を90%以上とする。[90.9%]	・学校教育自己診断（生徒）「学校行事は楽しく行えるように工夫されている」【82.0%】（△）令和6年度の反省を受け、令和7年度行事を見直したことでポイントは下がった。今後も前年度の反省を生かし、生徒とともに工夫する。
	（２）地域との連携の中で社会性を育成	（２） ア	・地域あいさつ運動、校区生徒会交流行事等へ積極的に参加し、地域連携を進めるとともに、生徒の自尊感情の育成を図る。	・校区内のあいさつ運動参加[年2回]、近隣小中学校との部活動体験・交流、寝屋川支援学校との交流を通じ、生徒の自尊感情を育成。学校教育自己診断(生徒)「先生は自分が努力したことを認めてくれる」の評価を前年度以上にする。[87.4%]、学校教育自己診断(生徒)「保護者や地域の人とかわる機会がある」評価を55%以上とする。[55.1%]	・校区内のあいさつ運動参加【1回】（△）2回あったが、生徒参加ができなかった。 ・学校教育自己診断(生徒)「先生は自分が努力したことを認めてくれる」【80.5%】（△）生徒が努力したと思うことと、教員が生徒に期待することの乖離があったと感じる。教員の期待ではなく、生徒の進歩に意識を向ける。 ・学校教育自己診断(生徒)「保護者や地域の人とかわる機会がある」【48.4%】（△）授業や部活動を通してかわる機会を聞いたことで部活動加入率が低いいためこの値になったと考える。地域の方の行事への招待など交流機会を考える。
	ア 地域連携活動参加を促進し、自信と誇りを高める		・行事公開、授業公開により、開かれた学校づくり、誇りを持てる学校づくりを進める。	・地域・保護者に向けた授業公開を年間1回以上実施し、開かれた学校づくりを進める。[1回]	・地域・保護者に向けた授業公開【1回】（○）
			・学校ホームページにおいてブログ等により積極的に情報を発信し、地域・保護者の教育活動に対する理解促進を図る。	・学校教育自己診断（保護者）「家庭への情報提供」に関する前年度肯定率を維持。[76.9%]	・学校教育自己診断（保護者）「家庭への情報提供」【79.4%】（○）
4 学校運営組織の充実と指導力向上	（１）経験年数の少ない教員の指導力の向上	（１） ア	・校内の初任者育成研修、授業研究、ケース研究の機会を拡大するとともに、研修動画視聴ツールを活用し、授業力の向上、生徒指導力の向上、教育相談技術の向上を図る。	・学校教育自己診断（教職員）による研修成果の共有」の評価を65%以上とする。[57.4%]	・学校教育自己診断（教職員）による研修成果の共有」【59.5%】（○）65%を上回ることができなかったが、ポイントは少し上昇した。教員の指導力向上、授業力向上は図っていく。
	ア 初任者育成体制活用による教育課題解決、研修成果の共有機会確保		・生徒の抱える課題、指導の在り方などについて共有する場を設ける。現状の改善に向け、SC・SSW等とも連携し、「チーム西寝屋川」として取り組む体制を整える。	・学校教育自己診断（生徒）、相談に関する評価を前年度以上にする。[76.3%]	・学校教育自己診断（生徒）、相談に関する評価【74.7%】（○）3年生は80%を超えており、時間はかかるが生徒との関係を作れている。相談される教員になれるような教員力向上に向け学校全体で取り組む。
	職員研修実施による学校全体の教育力向上		・授業アンケート、学校教育自己診断のデータを用いて、各教科内で教育・学習課題の共通理解を図る。	・職員研修を計画的に年4回以上実施。（防災・人権・授業改善等）[5回]	・職員研修【8回】（◎）まとまった時間は取れていないが課題について共通理解を図る機会を設けた。
			・各教科Can-do-listの見直しを行い、「観点別学習状況の評価」を効果的に行うための改善を行う。	・各教科Can-do-listを必要に応じて更新。「観点別学習状況評価」について適切に行うことができるよう改善に努める。	・「観点別学習状況評価」について適切に行うことができるよう改善（○）教職員が教育活動について日常的に話し合っており、各教員が改善に取り組んでいる。
	（２）働き方改革の推進	（２） ア			
	ア 一斉退庁日の活用、ノークラブデーの徹底、業務改善による時間外勤務時間の縮減		・一斉退庁日の活用、ノークラブデーの徹底、業務改善により働き方改革を推進し、時間外勤務時間の縮減を図る。	・40時間超の時間外勤務者数について前年度比10%削減をめざす。[のべ人数205人]	・40時間超の時間外勤務者数【延べ164人】（◎）